

居宅訪問型児童発達支援事業5領域支援プログラム

作成日 令和7年4月22日

事業所理念			
私たちは、障がいについての質の高い医療・福祉サービスを提供し、豊かな社会生活に向けての支援を行います			
基本方針			
1. 私たちは、利用者中心の医療福祉サービスの提供を行います 2. 私たちは、地域の多くの人たちと協働して、障がい児・者とその家族の地域生活を支援します 3. 私たちは、自己研鑽に励むとともに、障がい児・者の医療福祉従事者への研修の場を提供します 4. 私たちは、総合療育センターを構成する者として、その運営に積極的に取り組みます			
支援内容			
本人支援	5領域	健康生活	・お子様の心身の状態について、細やかに観察を行い、小さな変化に気づいて対応します ・睡眠、食事、排泄などの基本的な生活の安定や、生活リズムを整えるための支援を行います ・発達に応じた基本的な生活動作の獲得に向けた支援を行います
		運動感覚	・遊びの中で身体を動かす機会を設け、生活に必要な移動、姿勢保持、運動動作の獲得に繋がります ・生活、あそびを通した五感の活用(楽しみや好きなものを増やす)と感覚の育ちに関する支援を行います ・感覚に働きかけるあそびを通して、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、前庭固有覚等から情報をキャッチする力を育みます ・保有する感覚について評価を行い、感覚の補助及び代替手段の活用について検討します ・感覚調整や環境調整を通して日常生活やあそびにおける困難感、不安感の軽減に関する支援を行います
		認知行動	・玩具や道具を使用したあそびを通し、物との関わりを経験することで、「できること」「わかること」を増やしていきます ・繰返しの経験の中で、「できること」「わかること」を増やしていきます ・お子様の好きなことや興味関心を活動に取り入れながら、「注目する」「聞く」「触れる」の行動を促し、理解に繋がります
		言語 コミュニケーション	・他者との関わりを経験する中で、コミュニケーションに対する意欲の引き出しを図ります ・視線、発声、指差し、身振り、発語等、発達に合った方法を用いて、お子様の要求、意図、状況等、意思伝達をサポートします ・コミュニケーションを通して生活しやすくなり、より豊かで楽しい毎日を送ることを目指した支援を行います
		人間関係 社会性	・安心できる環境の中で人と関わる経験を積み、愛着や信頼関係の形成に繋がっていきます ・あそびを通して人との関わりを経験する中で、安心して関わるができる相手を増やしていきます

家族支援	・家族の思いや不安感に寄り添いながら、自宅での家族の暮らしが安定することを目指します ・生活状況や障がい特性に配慮したプログラムを体験する中で、家族が子育てに自信や喜びを感じられることを目指します ・サポートブック作成の援助をします
地域支援・地域連携	・医療機関、行政関係機関、子育て機関と連携し、お子様が安心して地域社会へ参加していけることを目指します ・地域全体の目標、課題として地域の子育て力を高めると共に、一人ひとりの違いを認め合い、互いの人権と尊厳を尊重し合う共生社会の実現を目指します
移行支援	・居宅訪問型児童発達支援で育った力が、家庭以外の場合でも同様に発揮できるよう汎化を目指します ・新入園、新入学、住居移転など、新たなライフステージを円滑に安心して迎えられることを目指します ①園、学校等訪問の実施 ②移行支援会議の実施 ③療育ノートやサポートブックの活用
主な行事等	保護者向け勉強会(つくしんぼクラブ)、保護者交流会(パパママ会) など